

重要政策提言を市長へ提出しました

市政報告 リョータ ジャーナル

NO.43
2020年11月発行
なかむら亮太後援会

主な提言項目

- ・危機管理部（仮）の創設
- ・配布 PC の活用とオンライン図書室
- ・市立幼稚園・保育園の今後のビジョン作成
- ・保健師の確保による子育て相談体制の強化
- ・地域 BWA の活用
- ・市街化調整区域について県と協議すること
- ・開発指導及びカミソリ地対策の徹底
- ・有害鳥獣とジャンボタニシ対策の強化
- ・遊休資産の売却等適正管理と有効活用
- ・浜幹線の開通に向けた取り組み
- ・加古川図書館の今後の検討
- ・上荘・平荘小学校跡地の地域活動への利用
- ・県立高校など県保有施設の避難所指定
- ・加古川駅南北の再開発
- ・加古川の水辺活用



未来へ！

～次世代に誇れる加古川のために～



加古川市議会議員

なかむら 亮太

リョータがゆく！ともに成長・子育て日記



最近、コロナの影響で外出が減っております。

それではダメだと福知山城へ。福知山イルというイベントでしたが、コロナ禍でもできることを工夫したものでした。娘も「夜のお出かけはドキドキするねえ」（実際は帰り）とご満悦！

どんな状況でも、思い出は作りたいものですね。



中村亮太 PROFILE

1981年4月4日生まれ 平成22年より現職・3期目 白陵中学・高校
関西学院大学法学部卒、神戸大学大学院 博士課程前期修了（政治学修士）
尊敬する人物は後藤田正晴・三木武吉・土方歳三
加古川町木村在住。今期は議会運営副委員長を務める。

後援会員募集中！

なかむら亮太後援会では、後援会員を募集しております。会員の皆様には、後援会報のほか様々なお案内を差し上げます。また同時に、市政報告書をご近所にお配りいただけるボランティアの方、後援会看板をご自宅や店舗等に設置いただける方も募集しております。ぜひ、下記までご連絡下さい。

TEL：079-427-9395（会派控室）・079-425-3811 / FAX:050-3156-1255 /

E-MAIL：info@ryotanakamura.com HP：http://ryotanakamura.com/

なかむら
亮太



RYOTA NAKAMURA

令和元年第5回定例会

主な議案の賛否

議案第97号	令和2年度加古川市一般会計補正予算（第5回）	賛成多数
議案第115号	GIGA スクール用コンピューター売買契約締結のこと	全会一致可決
認定第1号	令和元年度加古川市一般会計歳入歳出決算	認定（認定）

令和元年度決算を認定！

主な財政指数

	H29年度	H30年度	R1年度
財政力指数	0.900	0.913	0.914
経常収支比率（%）	93.8	93.6	94.0
実質公債費比率（%）	3.7	2.9	2.4

市債残高の推移

	H29年度	H30年度	R1年度
一般会計	72,454,596	71,938,617	73,994,734
特別会計	18,683,616	17,906,336	17,618,583
合計	91,138,212	89,844,953	91,613,317

（千円）

審査のポイント

- ・財政力は向上
- ・市債残高は**上昇**
- ・実質公債費比率は低下
（18%以上で大臣の許可・25%以上で発行が制限される）
- ・財政は依然硬直化が進む。
- ・実質単年度収支は黒字
- ・他、健全化判断比率は問題なし

代 表 質 問

1. 定住人口増におけた取り組みについて

①市街化調整区域を抱える地域の今後について

加古川市の計画に「新たな人口の流れを作る」という項目がありますが、基本的には駅前周辺を想定しています。

一方で人口減少が激しいのは、北部地域や志方・神吉など市街化調整区域が多い地区です。若い世代が環境の良いところで暮らしたいと思ったとしても、制限があり移住できません。これらの地域の未来について、どのような施策展開を考えるのか。

市街化調整区域とは？

無秩序な開発を抑制するために設定されるもので、住宅や商業施設などを建設することが制限される地域のこと。

⇨市街化区域

ポイント

- ・市街化区域と市街化調整区域の区別、いわゆる「線引き」は、県の所管。
- ・昭和46年に線引きがされ、そこから大きくは変わっていない。

Q：県の方針や市の対応は？

A：県は原則として市街化区域の拡大を考えてはいない。市としては、地区計画や田園まちづくり制度などを利用してこれまで対応しており、今後もその方向である。

市がまちづくりの主体として、県に申し入れをすべき！

線引きの権限は県にあるが、市の現状を理解しているわけでない。現状でも線引きを考え直すべき地域があり、それが今後のまちづくりにも繋がる。持続可能な地域のためにも、まちづくりに責任をもつ市が県へ積極的に働きかけていくべき！

Q：市街化調整区域での、その他の活用は？

A：空き家を活用した事業や、産業用地として活用をしていきたいと考えている。

加古川にきたい企業はあるため、しっかりと取り組んでいただきたい！

産業があれば、若い世代の流入も期待できる。通勤に時間をかけることがナンセンスになってきており、勤め先の近くで環境の良いところがあれば住みたいとなる。

また、自然に囲まれて暮らしたい層も一定以上いるため、積極的に動いていただきたい。



②ネットワークを活用した働き方や環境整備について

新型コロナウイルスによりリモートワークが根付きだし、都市部に住まなくても仕事ができる環境が整いだした。東京や大阪にオフィスを置かない選択をする企業も生まれだしている。

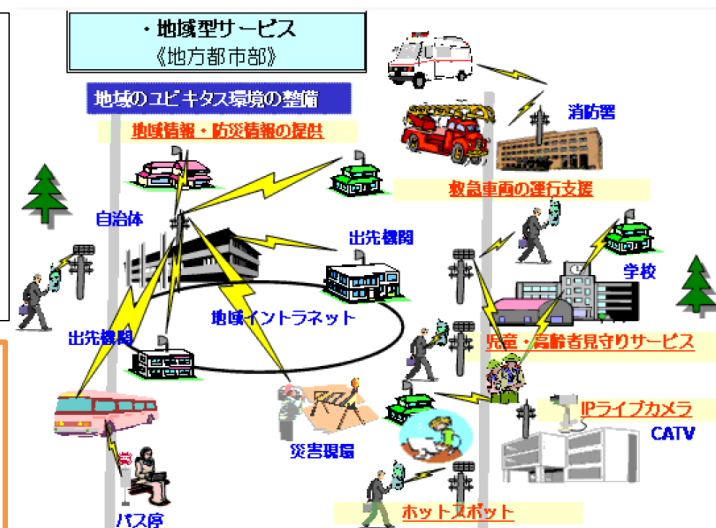
この変化は加古川市にとってチャンス。BANBAN ネットワークスが地域 BWA の認可を得たことを追い風に、無線環境の整ったまちとして、駅前開発や企業誘致、働く世代の誘致に繋げるべき！

地域 BWA とは？

地域の公共の福祉の増進のために、市と地域 BWA 事業者が連携し、区域内で高速データ通信を行うサービスのこと。

BANBAN ネットワークスが総務省の認可を得た。

加古川駅前で、自由にネットワークに繋ぐことができるシェアオフィスやリモートワークスペースの設置や企業誘致にも使える。ICT のまち加古川を印象付けるためにも、駅前活性化のためにも活用すべき！



(総務省資料より)

2. 小中学生の学びについて

①習熟度について

夏休みの短縮や行事を削ることでカリキュラムを消化しているが、保護者や児童・生徒からは「授業スピードが早いように感じる。」「理解できないまま置いていかれる子が出ないのか。」といった不安や心配の声を聞いているが、現状や対策は？

A：2学期末には通常時に追いつく予定である。学びの質を上げるために、9月から学習指導員も追加し、理解度を把握しながら学びの保証を行っていく。

②行事について

運動会や音楽会なども削られてきたが、行事ごとでしか得られないこともある。年度末までの行事の取り扱いについて、方向性はどうか？

A：カリキュラムに見通しもつきだしたため、コロナ対策をしながら半日や1日程度の行事の再開を求めている。モチベーション向上や絆づくりのためにも、行事を行っていききたい。